

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

# クラレ通信

第137期 期末報告書

2017年1月1日～2017年12月31日



## CONTENTS

- 1 ... 株主の皆様へ
- 3 ... 2017年度決算概況  
／2018年度業績予想
- 5 ... 【特集1】中期経営計画  
「PROUD 2020」の概要
- 6 ... 【特集2】社長インタビュー
- 9 ... クラレグループトピックス
- 11 ... 財務情報
- 13 ... 株式情報
- 14 ... お知らせ
- 巻末 ... 会社概要

株式会社 クラレ



代表取締役社長 伊藤 正明

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年度(2017年1月1日~2017年12月31日)の世界経済は、不安定な政情が経済へ与える影響が懸念されましたが、消費、投資とも引き続き拡大基調で、概ね順調に推移した一年となりました。日本経済は、順調な輸出を背景に企業収益が伸長したことに加え、雇用状況の改善が進み、景気は緩やかに上向きしました。米国及び欧州は企業収益、個人消費、雇用情勢のいずれも良好で、景気の拡大が継続しました。中国は金融引き締め政策の影響を受けましたが、堅調な個人消費が経済を下支えし、成長を維持しました。また、新興国においては徐々に景気回復が進んだ一年となりました。

このような状況において、当社グループは「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現すべく、2017年度を最終年度とする中期経営計画「GS-STEP」において掲げた経営戦略を着実に実行してまいりました。

2017年度の経営成績につきましては、売上高は前年同期比33,250百万円(6.9%)増の518,442百万円、営業利益は7,290百万円(10.7%)増の75,117百万円、経常利益は6,817百万円(10.3%)増の72,998百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は13,201百万円(32.7%)増の53,601百万円となりました。

2018年度における世界経済は、各地で地政学上のリスクが継続するものの、景気の拡大基調が続いており、概ね順調に推移することが見込まれます。一方、日本経済においては、順調な世界経済を背景とした輸出や投資が引き続き拡大しますが、個人消費の伸び悩みが懸念され、景気は緩やかな伸びにとどまることが予測されます。また、原燃料価格は2017年度より上昇に転じており、2018年度は製造原価のアップによる収益の悪化が懸念されます。

当社グループは、2018年度よりスタートする中期経営計画「PROUD 2020」で4つの主要経営戦略として、競争優位の追求、新たな事業領域の拡大、グループ総合力強化、環境への貢献を掲げています。スタートの年にあたって、前中期経営計画「GS-STEP」の結果を振り返り、積み残した課題を確実に成果に繋げると共に、「PROUD 2020」の経営戦略の具体的施策に順次着手してまいります。

## 2017年度業績ハイライト

こうした状況を踏まえ、2018年度は売上高5,400億円、営業利益770億円、経常利益750億円、親会社株主に帰属する当期純利益490億円を目指します。

また、当社グループは株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けております。中長期視点から、株主の皆様に対する経営成果の還元と将来的な成長力の確保に配慮し、適正で安定した利益還元に努めてまいり所存です。期末配当金は期初予想値のとおり1株あたり22円とさせていただきます。この結果、当期の配当金は中間配当金と合計しますと1株につき42円となります。なお、2017年度は上記の配当に加え、資本政策の一環として、130万株(28.8億円)の自己株式の取得を行いました。しかしながら、2017年12月末に可決された米国法人減税の影響により、繰延税金負債を取り崩したため、親会社株主に帰属する当期純利益が増えた結果、総還元性向は32.9%(米国法人減税の影響を除くと38.3%)となり、目標としていた総還元性向35%以上に届いておりません。

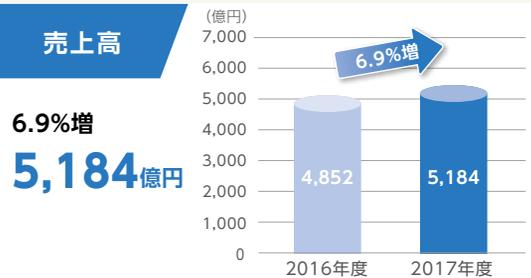
2018年度からスタートする中期経営計画「PROUD 2020」期間中においては、持続的な業績向上を通じた利益還元の増加を基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、1株あたり配当金40円以上といたします。

なお、2018年度の利益還元につきましては、2017年度で目標の35%以上に満たなかった総還元額の差額(11.2億円)を上乗せした利益還元をさせていただき所存です。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 正明

### 売上高



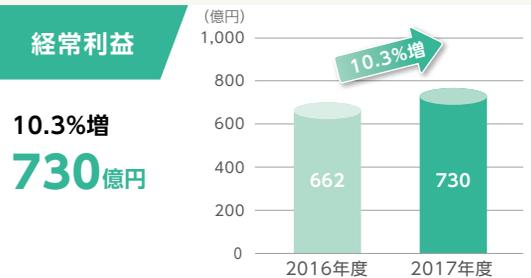
6.9%増  
5,184億円

### 営業利益



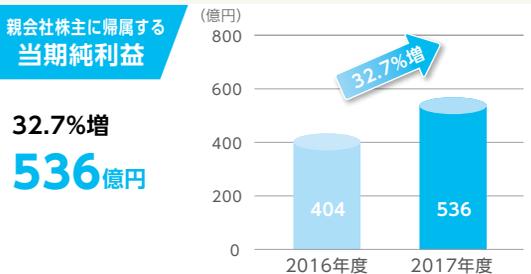
10.7%増  
751億円

### 経常利益



10.3%増  
730億円

### 親会社株主に帰属する 当期純利益



32.7%増  
536億円

# 2017年度決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入して表示しています。

当社の2017年度の業績は、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全てで前年同期を上回りました。また、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全ての利益において過去最高を更新しました。

## 2017年度 実績

(億円)

	2017年度	2016年度	増減
売上高	5,184	4,852	333
営業利益	751	678	73
経常利益	730	662	68
親会社株主に帰属する 当期純利益	536	404	132
各種前提			
円/ドル	112	109	-
円/ユーロ	127	120	-
国産ナフサ価格/kl	39千円	33千円	-

## セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

	2017年度		2016年度※		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	2,669	613	2,532	585	137	28
イソプレン	564	84	511	69	53	15
機能材料	699	75	680	45	19	30
繊維	517	60	486	60	31	0
トレーディング	1,288	39	1,195	38	93	1
その他	542	33	463	14	79	19
調整額	△1,095	△153	△1,014	△133	△81	△20
合計	5,184	751	4,852	678	333	73

※従来「活性炭事業」、「エネルギー材料事業」をその他セグメントに区分していましたが、2017年1月1日のクラレケミカル株式会社の吸収合併に伴い、これらの事業を「炭素材料事業」に統合し、機能材料セグメントに編入しました。比較対象となる2016年度は変更後のセグメント区分に基づいています。

## セグメント別の状況

### ■ ビニルアセテート

ポパール樹脂は米国新工場の本格稼働により、北米市場を中心に販売量が増加し、順調に推移しました。光学用ポパールフィルムは販売量が増加しました。なお、第2四半期より西条事業所の新設備の稼働を開始しました。水溶性ポパールフィルムは個包装洗剤用途の需要が拡大し、好調でした。PVBフィルムは高付加価値品の拡販が進みました。EVOH樹脂(エパール)は、食品包装用途、自動車ガソリンタンク用途ともに販売量が増大しました。

### ■ イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカル、熱可塑性エラストマー(セプトン)、液状ゴムとともに数量が伸長し、順調に推移しました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、自動車用途、コネクタ用途、LED反射板用途のいずれも販売が増大し、順調でした。

### ■ 機能材料

メタクリルは、一年を通じた好市況に加え、高付加価値品の販売が増加しました。メディカルは、歯科材料のジルコニア系新素材の販売が増大しました。人工皮革(クラリーノ)は、既存プロセス品ならびに新プロセス品ともに順調に推移しました。炭素材料は、高付加価値品の販売が増え、順調に推移しました。

### ■ 繊維

当セグメントはビニロンの販売が増大しましたが、一部原燃料価格上昇の影響を受けました。また、生活資材は(クラフレックス)の高付加価値品の拡販が進み、順調に推移しました。

### ■ トレーディング

繊維関連事業は、衣料分野において、スポーツ用途およびユニフォーム用途が堅調であったものの、原糸及びテキスタイルの輸出は苦戦しました。一方、海外縫製事業はベトナムで行った増強投資の効果が拡大しました。また、資材分野は概ね堅調に推移し、樹脂・化成品関連分野も輸出を中心に順調に推移しました。

### ■ その他

その他事業は、概ね好調に推移しました。

# 2018年度業績予想

## 2018年度 業績予想

(億円)

	上期	下期	通期
売上高	2,670	2,730	<b>5,400</b>
営業利益	360	410	<b>770</b>
経常利益	350	400	<b>750</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	230	260	<b>490</b>
1株当たり当期純利益	65円56銭	—	<b>139円67銭</b>
1株当たり配当	20円	22円	<b>42円</b>

前提としている平均為替は米ドル110円、ユーロ130円、国産ナフサ43千円/klです。

## 2018年度 セグメント別予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニリアセテート	1,390	1,430	<b>2,820</b>	285	300	<b>585</b>
イソプレン	290	300	<b>590</b>	35	55	<b>90</b>
機能材料	290	300	<b>590</b>	30	35	<b>65</b>
繊維	350	330	<b>680</b>	33	42	<b>75</b>
トレーディング	660	690	<b>1,350</b>	22	23	<b>45</b>
その他	240	270	<b>510</b>	17	18	<b>35</b>
調整額	△550	△590	<b>△1,140</b>	△62	△63	<b>△125</b>
合計	2,670	2,730	<b>5,400</b>	360	410	<b>770</b>

※当表ではクラリーノ事業のセグメント区分変更後の2018年度業績予想を示しています。

## 2018年度 配当金について

**42円/株** 予定 (中間:20円、期末:22円)

配当性向: 30.1%

「PROUD 2020」期間中の  
利益配分

- 総還元性向: 35%以上
- 一株当たり配当金: 40円以上
- 自社株買い: 弾力的に実施

## セグメント変更について

2017年度において「クラリーノ事業」を機能材料セグメントに区分していましたが、2018年度には当事業を繊維セグメントへ編入することとしました。

ビニリアセテート	変更なし
イソプレン	変更なし
機能材料	メタクリル メディカル 〈クラリーノ〉 炭素材料
繊維	〈クラリーノ〉 繊維資材 生活資材
トレーディング	変更なし
その他	変更なし

「機能材料」から「繊維」へ  
変更することとしました。

# 中期経営計画「PROUD 2020」の概要

当社は、創立100周年を迎える2026年のありたい姿「独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」を長期ビジョンに掲げ、その実現に向けた2018年度～2020年度の3ヵ年計画として、中期経営計画「PROUD 2020」をスタートいたしました。

## 1 「PROUD 2020」の主要経営戦略

「PROUD 2020」では長期ビジョンで掲げたありたい姿に向けて、**4つの経営戦略**に基づいた施策を実施いたします。



### 競争優位の追求

- 顧客ベースの高付加価値製品・用途の開発
- 新興国市場の需要創出
- IoTを活用した生産・業務プロセスの革新

PROUD

### 新たな事業領域の拡大

- 独自技術の研鑽と外部技術の取り込みによる新事業創出
- M&A・アライアンスによる新領域の獲得
- 技術とサービスを融合したビジネスモデルの確立

PROUD

### グループ総合力強化

- グローバル経営基盤の構築
- 働きがいのある職場づくり
- クラレグループの更なる一体感の醸成

PROUD

### 環境への貢献

- 地球環境に貢献する製品の提供
- 環境負荷を低減したプロセスの実践
- 生活の質(QOL)向上に貢献する製品の提供

PROUD

## 2 業績目標

	2020年度目標(最終年度)
売上高	6,500億円
営業利益	900億円
営業利益率	14%
当期純利益	620億円

事業セグメント	2020年度目標(最終年度)	
	売上高	営業利益
ビニルアセテート	3,250億円	670億円
イソブレン	710億円	100億円
機能材料	740億円	80億円
繊維	830億円	85億円
トレーディング	1,430億円	50億円
その他	710億円	45億円
調整額	△1,170億円	△130億円
合計	6,500億円	900億円

## 3 設備投資計画



3年間で**2,500億円**の設備投資を計画  
**戦略投資と成長投資が約6割**を占める

### M&A

具体枠を設定せず、上記2,500億円以外に別枠で検討

# 中期経営計画「PROUD 2020」のスタートにあたって



代表取締役社長 伊藤 正明

## Q 2 長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」の考え方について。

今回の中期経営計画を策定するにあたり、創立100周年を迎える2026年に向けて、長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」を策定しました。2026年に当社を取り巻く環境は、産業の発展や世界経済の構造変化などによって、劇的に変化することが予想されます。例えば、AIやIoTの活用で代表されるデジタル化の進展は、様々な産業で技術革新をもたらす可能性があります。また、新興国の存在感はますます増大し、今後、消費地としてだけでなく、調達、生産、開発の場として、新たなビジネスの機会に繋がることが期待できます。当社はこのような環境変化をチャンスとして捉え、2026年にありたい姿として掲げた「独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」を目指し、社員一人ひとりが果敢に挑戦し続ける会社にしていきたいと思っています。

## Q 3 中期経営計画「PROUD 2020」で目指す方向性について教えてください。

新しい中期経営計画では、『クラレグループを取り巻くすべての人が誇りに思える(Proud)企業』を実現したいという思いで「PROUD 2020」という名称にしました。この「PROUD 2020」では長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」で掲げたありたい姿の実現に向けて、4つの主要経営戦略「競争優位の追求」、「新たな事業領域の拡大」、「グループ総合力強化」、「環境への貢献」に基づいた施策を行っていきます。既存事業では用途・地域の拡大を推進しながら、新事業や新しいビジネスモデルの創出や、買収事業の融合やシナジーの発現を行っていきます。また、事業の拡大や基盤強化のための継続的な投資を積極的に行い、最終年度となる2020年度は、売上高6,500億円、営業利益900億円を目指してまいります。

## Q 1 前中期経営計画「GS-STEP」の成果を教えてください。

「GS-STEP」では「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」の実現を掲げて、ビニルアセテートを中心に成長事業への積極的な設備投資を実施し、コア事業の強化を図りました。また、買収事業であるGLS事業のシナジー発現や、次世代成長モデルの創出としてカルゴンカーボン社の買収を決定するなど、具体的施策を着実に実行してまいりました。売上高と営業利益については、初年度の2015年度に中国をはじめとする新興国の景気減速の影響で、予定していた成長が出来なかったことに加えて、ポバール樹脂の北米プラントの建設、及び立ち上げ遅れの影響もあり、残念ながら、最終年度の目標に大きく届きませんでした。一方、「GS-STEP」の最終年度である2017年度の営業利益率は目標としていた13.8%を上回る14.4%となり、営業利益は3年連続で過去最高を更新することができました。

### Q 4 「PROUD 2020」で掲げる 4つの主要経営戦略の 具体的な内容を教えてください。

「競争優位の追求」では、顧客ニーズに基づく高付加価値製品・用途の開発を推進するとともに、今後、更に存在感が増す新興国・地域を、新たな機会創出の場として捉え、戦略的な取り組みを強化します。また、IoTを活用した生産・業務プロセスの革新・改善を行うことで競争力の強化を行っていきます。

「新たな事業領域の拡大」では、独自技術の研鑽と外部技術の取り込みによる新事業の創出やM&A・アライアンスによる新領域の獲得、技術とサービスを組み合わせたビジネスモデルの確立を行うことで事業領域を拡大していきます。

「グループ総合力強化」では、ビジネスの拡大に合わせたグローバル経営基盤の構築や、世界の多様な優秀人材を惹きつける働きがいのある職場づくりを通じ、クラレグループの更なる一体感を醸成します。また、より強い研究所の創設による、世界で戦うための研究力強化や、社員教育の充実を目的とした新たな研修所の整備を推進します。加えて、コンプライアンス徹底の取り組み強化を行います。

「環境への貢献」では、これら3つの経営戦略に基づく具体的な施策の実施において、事業活動における環境負荷の低減だけでなく、地球環境や社会問題の解決に貢献する製品やサービスの提供、安全・安心な製品やサービスの提供を通じ、自然環境や生活環境の向上に貢献します。

### Q 5 セグメント別の事業戦略に ついて教えてください。

ビニルアセテートセグメントでは、新市場開拓と高付加価値化を進め、確固たる市場ポジションを維持し、持続的成



長を目指していきます。ポバール樹脂はグローバルで4カ国6拠点あるプラントオペレーションの最適化を行うとともに、高付加価値品へのシフトを行っていきます。PVBフィルムは自動車用高機能フィルムや建築用の高強度フィルムを拡大します。また、〈エバール〉や水溶性ポバールフィルムは更なる用途開発の推進や新興国における新たな需要の創出を行っていきます。設備投資面では、ビニルアセテート製品の原料となる酢酸ビニルモノマーの新設や引き続き需要の拡大が見込まれる光学用ポバールフィルムの設備増強のほかに、水溶性ポバールフィルムやガスバリア樹脂〈エバール〉でも増強を計画しており、各事業の拡大をさらに加速してまいります。

イソプレンセグメントは、タイでの事業化を着実に遂行していくとともに、新プラントの稼働を見据えた、新市場と新用途の創出を行い、将来に向けた事業強化を図っていきます。イソプレンケミカルのオンリーワン製品へのシフトは継続して進め、エラストマーは高機能品の販売を増やします。また、タイヤ原料として使用されている液状ゴムや車載電装部品など自動車用途で採用が広がっている耐熱ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は、グローバルでさらなる拡大を図ってまいります。

**機能材料セグメント**では、当社が保有する技術力を生かした製品展開と市場への継続した価値提供を目指します。メタクリルは樹脂、シートとも高付加価値への追求を継続して行い、歯科材料はCAD/CAM機器(コンピューターでかぶせ物を設計・制作するシステム)向けのジルコニアブロックを中心とした販売を拡大していきます。また、炭素材料事業は、買収を決定したカルゴンカーボン社との事業融合を図り、活性炭の製品ラインナップ拡充とさらなるグローバル展開を行ってまいります。

**繊維セグメント**は、既存用途を伸ばしながら、独自性を生かして新規分野への展開を行います。〈クラリーノ〉では、新プロセス品〈ティレニーナ〉で高級天然皮革代替としてラグジュアリーブランドへの展開を加速してまいります。また、車両内装用途への本格参入を目指します。ビニロンは革新プロセス品(VIP)で引き続き市場拡大を行ってまいります。また、生活資材では〈クラフレックス〉で新規メルトブローン不織布の開発を行い、高付加価値品へのシフトを推進してまいります。

## Q 6 研究開発の方針について教えてください。

研究開発は「既存事業の強化・拡大」、「基盤技術の構築・深耕」、「新事業の推進」の3つの方針に基づいた施策を推進していきます。「既存事業の強化・拡大」では事業部、グループ会社との協働・支援を強化し、事業の盤石化を図るとともに、新事業開発を促進します。「基盤技術の構築・深耕」では、製造プロセスや新製品の開発の要となる触媒研究の強化や、高分子材料の研究開発を推進してまいります。「新事業の推進」では、主に電気・電子材料分野、自動車用途向けに新しい材料の開発を進めてまいります。「PROUD 2020」期間中は具体的テーマとして、液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉、微細加工フィルム、半導体用の研磨パッド、リチウムイオン二

次電池の負極材材料〈クラノード〉の拡大へ注力し、早期利益貢献化を目指します。

## Q 7 「PROUD 2020」期間中の株主還元についてのお考えは。

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けております。中長期視点から、株主の皆様に対する経営成果の還元と将来的な成長力の確保に配慮し、適正で安定した利益還元に努めてまいります。

「PROUD 2020」期間中の株主還元につきましては、持続的な業績向上を通じた利益還元の増加を基本方針として、総還元性向35%以上、1株あたり年間配当金は40円以上といたします。

株主の皆様のご理解を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。



# 2017年度のクラレグループの主なニュースをご

## 【第3回クラレカップ ジュニアサマージャンプ朝日大会】を主催

女子スキージャンプ高梨沙羅選手と当社は朝日スキー連盟、北海道士別市関係者の皆さまのご支援のもと、2017年7月27日に「第3回クラレカップ ジュニアサマージャンプ朝日大会」を主催いたしました。

本大会は、高梨選手のジュニア世代の選手が参加できる大会をより増やしていきたいという想いに応えて、当社が社会貢献活動の一貫として2015年から実施しているものです。今回は小学生、中学生合わせて72名が参加しました。3年連続参加している選手もあり、ジュニアジャンパーたちの成長を感じる大会となりました。

高梨選手は大会アンバサダーを務め、競技前のエクササイズ企画に選手と一緒に参加するほか、競技を終えた選手たちへ参加賞を配ったり、アドバイスをしたりと、ジュニアジャンパーのみなさんと触れ合いました。



競技を終えた選手に  
アドバイスする高梨選手



ジャンプ台をバックに参加選手と

## 女子カーリングチーム「ロコ」

女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ(LS)北見」向けに、人工皮革(クラリーノ)を使用した専用グローブを開発しました。LS北見のメンバー全員が専用グローブを使用しております。

当社のクラリーノ事業部は、2011年より同チームの活動を応援しており、今後も応援を続けていきます。



競技の様子

2017年 1月

7月

8月

9月

## 2017年1-6月の クラレグループトピックス

- 光学用ポパールフィルムの新生産ラインの竣工式を開催
- 液状ファルネセンゴムLFRが自動車用タイヤで初採用
- 〈エコマジック〉が織研合織賞を受賞
- 米国における水溶性ポパールフィルム生産設備の増設を決定
- 〈PLANTIC〉R が「第29回 デュボンパッケージング賞」を受賞
- 〈エバール〉米国生産開始30周年、欧州設立20周年

## 米国Calgon Carbon Corporationの買収決定

当社は、活性炭世界最大手である米国Calgon Carbon社(ニューヨーク証券取引所上場)の全株式を取得し、当社の完全子会社とすることについて、同社と合意しました。本買収後は、炭素材料事業をビニルアセテート事業、イソプレン事業に続く将来のコア事業の一つにすべく、Calgon Carbon社のグローバルに強固な事業基盤を活用した事業拡大の推進、両社の持つ技術力・開発力の融合による技術革新の加速、

### Calgon Carbon社の概要

会社名	Calgon Carbon Corporation
創業	1942年
所在地	米国ペンシルバニア州ピッツバーグ近郊
従業員数	1,334名
業務内容	活性炭および水処理機器の製造・販売



買収決定の記者会見(左から)伊藤社長、佐野常務執行役員、上山執行役員

# 紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

## ソラーレ北見」にグローブを提供

### チーム「ロコ・ソラーレ(LS)北見」 専用グローブについて

人工皮革〈クラリーノ〉は、グリップ性、耐久性に優れた特長により、ゴルフグローブをはじめとするスポーツ手袋の素材として、長年にわたり使用されています。スポーツ手袋で培った長年のノウハウ、技術を活かし、手袋を販売しているグループ会社のクラレトレーディング株式会社と連携し、LS北見のメンバーのために、専用グローブを開発、提供しました。



〈クラリーノ〉を使用した  
専用グローブ

## Kuraray KoreaがIndustrial Service Medalを受賞

韓国現地法人Kuraray Korea Ltd.は、「2017 Foreign Company Day」において、Industrial Service Medalを受賞しました。同賞は、韓国外国企業協会によって毎年選ばれるもので、外国企業による外資投資が表彰対象となります。同社のPVBフィルム製造設備投資による経済効果や雇用創出が評価され、受賞に至りました。授賞式は2017年11月7日にLe Meridien Seoulホテルで執り行われました。

今回の設備投資は、PVBフィルムの自動車用途の拡大を目指す戦略的投資です。成長市場であるアジアに立地する韓国での増設により、多様化する顧客ニーズに応えるとともに現地供給体制を強化し、さらなる事業拡大を図ります。



授賞式に出席した天津PVB副事業部長  
(右から4人目)

10月

11月

12月

生産体制の最適化によるコストダウンなどの戦略的施策を順次実施します。

なお本買収は2018年3月に完了し、Calgon Carbon社はニューヨーク証券取引所の上場を廃止するとともに、当社の完全子会社となりました。

## テーマは「Think Next」

### 未来の素材を提案する、初の繊維総合素材展を開催

クラレトレーディング株式会社は、2017年11月28日から29日まで東京の時事通信ホールで「繊維総合素材展」を開催しました。同展は「Think Next」をテーマに、クラレの独自樹脂をベースに開発された原糸からテキスタイル、さらに製品までの一貫した技術力・開発力を提案する繊維総合素材展で、初めての開催にもかかわらず2日間で多くのお客さまに会場いただきました。

主な展示ブースは「ヤーン」「婦人、フォーマル」「スポーツ」「人工皮革〈クラリーノ〉」「機能繊維」「ミライ素材」の6つで、デジタルサイネージの活用や動きのあるマネキンを使った製品ディスプレイを行いました。また、独自の技術で繊維化した〈ミントパール〉のデモンストレーションなども実施し、クラレトレーディングの独自素材や技術力・開発力などへの理解を深めていただきました。



展示会の様子

# 2017年度

## 連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2	増減
<b>売上高</b>	<b>5,184</b>	4,852	333
売上原価	3,398	3,177	221
売上総利益	1,786	1,674	112
販売費及び一般管理費	1,035	996	39
<b>営業利益</b>	<b>751</b>	678	73
営業外収益	32	49	△ 17
営業外費用	53	66	△ 12
<b>経常利益</b>	<b>730</b>	662	68
特別利益	39	—	39
特別損失	87	57	30
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>681</b>	605	76
法人税、住民税及び事業税	210	175	36
法人税等調整額	△ 74	18	△ 92
<b>当期純利益</b>	<b>545</b>	412	133
非支配株主に帰属する当期純利益	9	8	1
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>536</b>	404	132

\*1: 2017年1月1日~2017年12月31日 \*2: 2016年1月1日~2016年12月31日

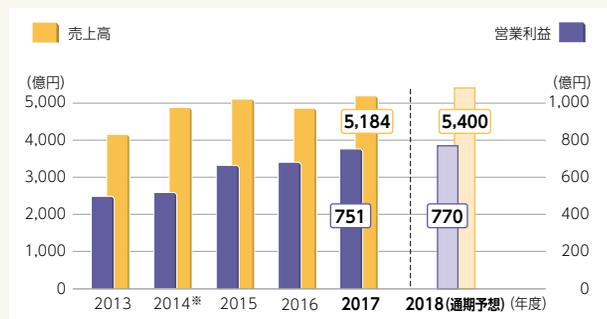
## 連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

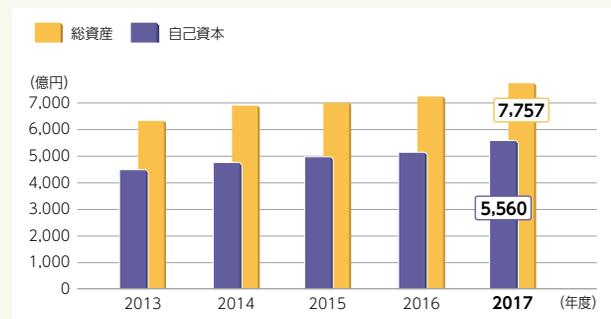
資産の部	当期*1	前期*2	増減
<b>流動資産</b>	<b>3,595</b>	3,250	345
現金及び預金	609	514	95
受取手形及び売掛金	1,139	1,050	89
有価証券	383	391	△ 8
棚卸資産	1,275	1,113	162
繰延税金資産	77	60	17
その他	117	127	△ 10
貸倒引当金	△ 4	△ 5	0
<b>固定資産</b>	<b>4,163</b>	4,005	158
<b>有形固定資産</b>	<b>2,872</b>	2,718	154
建物及び構築物	593	543	49
機械装置及び運搬具	1,648	1,630	18
建設仮勘定	382	299	83
その他	249	246	3
<b>無形固定資産</b>	<b>770</b>	795	△ 25
投資その他の資産	520	491	29
投資有価証券	354	340	14
その他	167	151	16
貸倒引当金	△ 0	△ 0	0
<b>資産合計</b>	<b>7,757</b>	7,254	503

\*1: 2017年12月31日現在 \*2: 2016年12月31日現在

## 売上高・営業利益



## 総資産・自己資本



\* 2014年度は2014年1月~12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

\*損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

負債の部	当期*1	前期*2	増減
<b>流動負債</b>	<b>1,081</b>	961	119
支払手形及び買掛金	399	364	34
短期借入金	79	76	2
その他	603	521	82
<b>固定負債</b>	<b>1,032</b>	1,083	△ 51
社債	100	100	—
長期借入金	421	422	△ 1
その他	511	561	△ 51
<b>負債合計</b>	<b>2,112</b>	2,045	68
<b>純資産の部</b>	<b>当期*1</b>	<b>前期*2</b>	<b>増減</b>
<b>株主資本</b>	<b>5,137</b>	4,764	373
資本金	890	890	—
資本剰余金	872	872	0
利益剰余金	3,437	3,043	394
自己株式	△ 61	△ 40	△ 21
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>422</b>	365	57
その他有価証券評価差額金	130	109	21
繰延ヘッジ損益	△ 6	△ 1	△ 5
為替換算調整勘定	337	301	36
退職給付に係る調整累計額	△ 38	△ 43	5
<b>新株予約権</b>	<b>5</b>	7	△ 2
<b>非支配株主持分</b>	<b>80</b>	73	7
<b>純資産合計</b>	<b>5,645</b>	5,210	435
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>7,757</b>	7,254	503

\*1：2017年12月31日現在 \*2：2016年12月31日現在

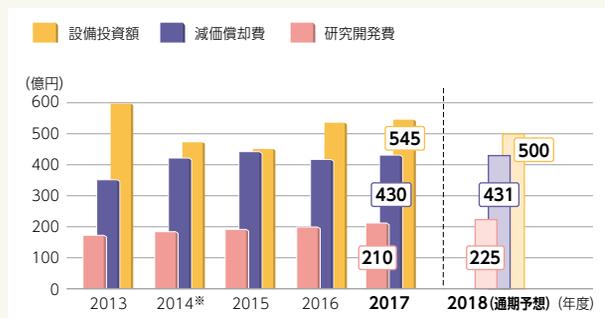
## 連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2
<b>1.営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>846</b>	939
税金等調整前当期純利益	681	605
減価償却費	430	416
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 177	△ 244
その他営業活動による支出	△ 88	163
<b>2.投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 799</b>	△ 493
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 554	△ 500
その他投資活動による収支	△ 245	7
<b>3.財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 172</b>	△ 147
借入金の純増減額	1	4
配当金の支払額	△ 146	△ 149
その他財務活動による収支	△ 27	△ 1
<b>4.現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 9</b>	△ 15
<b>5.現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△ 133</b>	284
<b>6.現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>834</b>	548
<b>7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>2</b>	2
<b>8.現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>702</b>	834

\*1：2017年1月1日～2017年12月31日 \*2：2016年1月1日～2016年12月31日

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費



\* 2014年度は2014年1月～12月の12カ月に補正した数値を示しております。

## 海外売上高推移



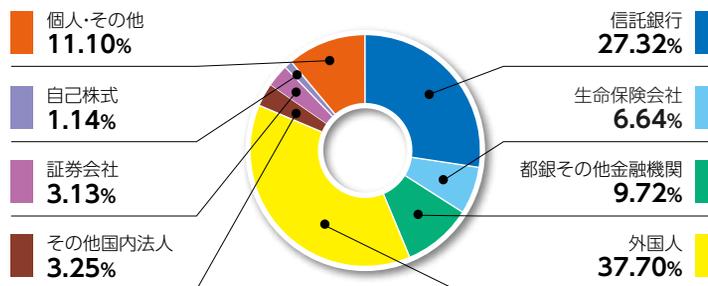
\* 2014年度は2014年1月～12月の12カ月に補正した数値を示しております。

# 株式情報について

## 株式の状況

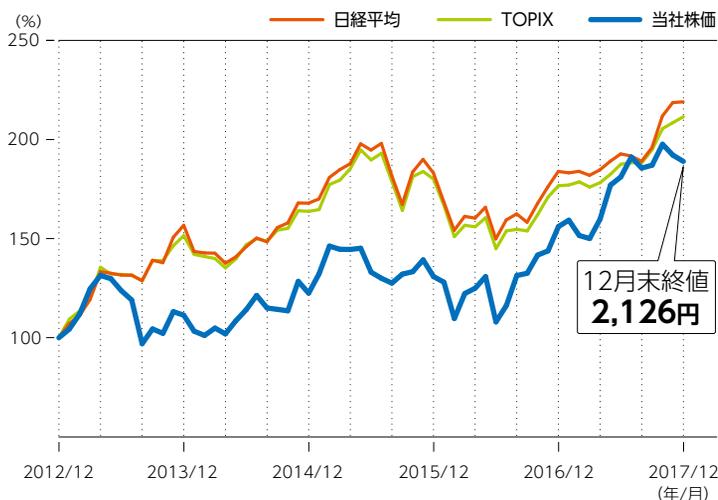
発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,000,000,000 株	354,863,603 株	40,891 名

## 株主構成 (持株比率)



## 当社株価と主要指標との比較 (2012年12月~2017年12月)

2012年12月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



## 投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。是非ご覧ください。



クラレ 検索

<http://www.kuraray.co.jp>

## 株式に関する住所変更等の届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等の届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

### 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-782-031  
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)



## ● 会社概要

クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

<b>社名</b>	株式会社 クラレ
<b>英文社名</b>	KURARAY CO., LTD.
<b>設立</b>	1926(大正15)年6月24日
<b>資本金</b>	890億円(2017年12月31日現在)
<b>東京本社</b>	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
<b>大阪本社</b>	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
<b>ホームページ</b>	<a href="http://www.kuraray.co.jp">http://www.kuraray.co.jp</a>

### クラレグループの主な事業

ビニリアセテート	ポバール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
イソプレン	イソプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革、炭素材の製造・販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。  
 2.この冊子に記載の( )をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。  
 3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

### 役員 (2018年3月23日現在)

代表取締役社長	伊藤 正明
代表取締役・専務執行役員	松山 貞秋
取締役・専務執行役員	久川 和彦
取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役・常務執行役員	中山 和大
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	佐野 義正
取締役(社外取締役)	浜口 友一
取締役(社外取締役)	浜野 潤
常勤監査役	雪吉 邦夫
常勤監査役	山根 幸則
監査役(社外監査役)	藤本 美枝
監査役(社外監査役)	岡本 吉光
監査役(社外監査役)	永濱 光弘
専務執行役員	豊浦 仁
常務執行役員	柏村 次史
常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
常務執行役員	川原 仁
常務執行役員	多賀 敬治
執行役員	大村 章
執行役員	P. スコット ベニング (P. Scott Bening)
執行役員	ステファン コックス (Stephen Cox)
執行役員	津軽 利紀
執行役員	高野 浩一
執行役員	高井 信彦
執行役員	尾松 俊宏
執行役員	鈴木 一
執行役員	中村 育雄
執行役員	松崎 一朗
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	渡邊 知行
執行役員	山口 勝正

### 【表紙の写真について】 当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

所 属：クラレテクノ(株) ビル管理サービス事業部  
 名 前：秋田 智  
 タイトル：水島の春  
 撮影場所：岡山県倉敷市 種松山公園

撮影者のコメント：倉敷市街地の南に位置する種松山公園で、頂上から遠くに水島コンビナートが一望できます。毎年春にはおよそ1,200本の桜が咲き誇り、桜の名所として市民に親しまれています。